

ODIP 4.4 修正パッチ (P1040405005944) リリースノート

2024/6/28

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目次

A. 変更内容	4
1. SAP HANA への対応	4
2. dbaccess.log の出力フィルタ機能を改定	5
3. その他の修正	6
B. パッチ適用による影響	6
1. dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴う影響	6
C. パッチの適用方法	6
1. ライブラリファイルの更新	7
2. パッチ適用後の確認	7

A. 変更内容

1. SAP HANA への対応

データソース情報の DBMS 名に「SAP HANA」が追加され、処理の入出力データベース、及びトランスフォーマリポジトリに SAP HANA を使用できるようになりました。

ローダ処理等のコマンドテンプレート、JDBC 接続文字列へのオプション等を変更される場合、ODIP 各製品 (ODIP リポジトリサーバを除く) の config/jdbcsample フォルダの hana.properties を config フォルダ配下に格納、編集してください。

(1) 制限事項、留意点

- ① ODIP トランスフォーマのローダ処理 (外部ファイルからテーブルにロード) を実行する場合、SAP HANA サーバ上に ODIP トランスフォーマをインストールまたは格納する必要があります。ローダ処理を実行しない場合、①②③の制限事項は不要です。
- ② ODIP が出力するローダ用 (dat) ファイルをテーブルにロードするため、SAP HANA 側のファイル (nameserver.ini) の enable_csv_import_path_filter に false を指定、かつ、csv_import_path_filter に ODIP 設定ファイル (odip.ini) の job.loader.data.dir を指定してください。
- ③ ローダ処理で実行する IMPORT FROM 文の WITH FAIL ON INVALID DATA オプションによって、無効なデータをロードした場合、実行結果はエラーを返すようになります。
- ④ ODIP アドミニストレータの「入力データ」コンポーネントの「リレーション属性」で SUBSTRB 関数を使用することができません。定義して実行した場合、エラーが発生します。
- ⑤ SAP HANA では、JDBC ドライバの一部の操作がサポートされないため ODIP アドミニストレータの「データベース・ツール」 > 「データ表示」のページ移動を行うことができません。
- ⑥ 再帰クエリの処理はサポートしていません。再帰クエリを定義して実行した場合、エラーが発生します。
- ⑦ SAP HANA の TIMESTAMP 型の小数部は7桁固定のため、ODIP で TIMESTAMP

型の小数部を指定してテーブルを作成しても、テーブルの小数部は 7 桁固定となります。アドミニストレータの「データベース・ツール」 > 「スキーマ・チェック」でテーブルとデータセットの小数部の差異をチェックしません。

- ⑧ ODIP トランスフォーマの実行オプションでスレッドモードまたは Web API を有効にする場合、-tempds オプションに SAP HANA のデータソース情報を指定することは非推奨です。

2. dbaccess.log の出力フィルタ機能を改定

(1) dbaccess.log に出力するフィルタを正規表現で指定するよう改定

ODIP が実行する SQL 文を dbaccess.log に出力するフィルタにおいて、従来はオプション (server.dblog.filter.exclude、server.dblog.filter.include) で指定した文字列と部分一致する SQL 文をフィルタ対象としていましたが、改定後はオプションに正規表現を指定して、正規表現の文字列パターンに一致する SQL 文をフィルタ対象とするよう改定しました。正規表現で特殊文字 (半角アスタリスク、半角括弧等) を文字として認識させたい場合、"¥¥" (バックスラッシュ・円記号 2 つ) でエスケープする必要があります。

従来と同様、複数の文字列パターンを指定する場合は半角カンマで区切ります。パターンに半角カンマを含むことはできません。

(2) server.dblog.filter.exclude、server.dblog.filter.include の既定値、初期設定値を変更

ODIP トランスフォーマの config フォルダに格納されている odip.ini の server.dblog.filter.exclude 及び server.dblog.filter.include の既定値、初期設定値を変更しました。

変更前の既定値、初期設定値)

```
server.dblog.filter.exclude = COUNT(*)
```

```
server.dblog.filter.include = SELECT,DELETE,CREATE,DROP,RENAME
```

変更後の既定値)

```
server.dblog.filter.exclude =
```

```
server.dblog.filter.include =
```

変更後の初期設定値)

```
server.dblog.filter.exclude = .*COUNT¥¥(¥¥*¥¥).*,^INSERT.*,^UPDATE.*,^MERGE.*
```

```
server.dblog.filter.include =
```

※server.dblog.filter.include の設定値が空文字、もしくはオプション自体の設定がない場合は、server.dblog.filter.exclude で除外された以外の全ての SQL 文が出力対象となります。

3. その他の修正

- (1) ODIP アドミニストレータの「データベース・ツール」 > 「データ表示」のページ移動で、JDBC ドライバで操作がサポートされていない場合に表示されるエラーメッセージを修正しました。
- (2) ODIP アドミニストレータの「データベース・ツール」 > 「データ表示」で、「CSV ファイルの書き出し」の操作がサポートされていなかった一部の DBMS (Snowflake 等) で「CSV ファイルの書き出し」ができるように改定しました。
- (3) ODIP が実行する SQL 文に改行が含まれていると、dbaccess.log に出力されない問題を修正しました。
- (4) ODIP オペレーションマネージャから HiRDB に接続し、基準日管理エディタに表示されているプロセスについて基準日情報ダイアログからサイクル基準日の値を更新するとエラーが発生する問題を修正しました。

B. パッチ適用による影響

1. dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴う影響

dbaccess.log の出力フィルタの改定に伴い、ODIP トランスフォーマの config フォルダに格納されている odip.ini の server.dblog.filter.exclude 及び server.dblog.filter.include にフィルタ設定をしている場合、設定の変更が必要になる事があります。

例えば、INSERT 文をフィルタの対象としていた場合、従来は"INSERT"と設定していれば部分一致でフィルタ対象となっておりましたが、改定後は正規表現で「^INSERT.*」(INSERT で始まる文字列)と設定する必要があります。また、"COUNT(*)"など、含まれる特殊文字を文字として認識させる場合、改定後は正規表現で「COUNT¥¥(¥¥*¥¥)」といったように"¥¥" (バックスラッシュ・円記号 2 つ) でエスケープする必要があります。正規表現の指定に誤りがあると、ODIP トランスフォーマ起動時にエラーとなります。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ❑ ODIP アドミニストレータ v4.4
- ❑ ODIP オペレーションマネージャ v4.4
- ❑ ODIP リポジトリマネージャ v4.4
- ❑ ODIP プロセスマネージャ v4.4
- ❑ ODIP リポジトリサーバ v4.4
- ❑ ODIP トランスフォーマ v4.4

1. ライブラリファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP_P1040405005944 フォルダに格納されているライブラリファイルを、表 11 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040405005944 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040405005944	ファイルのコピー先
lib	
ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ
config	
ADM	
jdbcsample	ODIP アドミニストレータの config 配下の jdbcsample フォルダ
OPE	
jdbcsample	ODIP オペレーションマネージャの config 配下の jdbcsample フォルダ
RPM	
jdbcsample	ODIP リポジトリマネージャの config 配下の jdbcsample フォルダ
TFM	
jdbcsample	ODIP トランスフォーマの config 配下の jdbcsample フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表の確認方法に従って確認を行ってください。

表2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040405005944 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから"ORMS サーバ情報"を選択し、“バージョン情報”タブを開き、表示されたすべてのビルド ID が 1040405005944 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040405005944 であることを確認してください。

以上